

志方地区外公共下水道整備事業（第1工区）

審査講評

平成31年2月

加古川市上下水道施設整備事業者選定委員会

志方地区外公共下水道整備事業（第1工区）の公募型プロポーザルによる最優秀提案について、当選定委員会における審査の結果を報告する。

平成31年2月14日

加古川市上下水道施設整備事業者選定委員会

委員長 酒井 彰

副委員長 檀 和秀

委員 上野 敏明

委員 松井三思呂

委員 高岸 義久

目 次

1. 事業者選定の体制及び開催結果.....	1
1-1. 事業者選定の体制及び進め方.....	1
1-2. 選定委員会.....	1
1-3. 選定委員会の審査経緯.....	1
2. 選定結果	2
2-1. 応募資格の審査.....	2
2-2. 提案価格審査.....	2
2-3. 基礎審査.....	2
2-4. 技術評価審査.....	2
2-5. 技術評価審査（技術評価点）の結果.....	4
2-6. 提案価格の審査（価格評価点）の結果.....	5
2-7. 総合評価結果.....	5
3. 審査結果の総評.....	6
添付資料 審査項目別評価.....	7

1. 事業者選定の体制及び開催結果

1-1. 事業者選定の体制及び進め方

提案内容の審査にあたっては、加古川市上下水道局（以下、「局」という。）が提案価格の審査及び基礎審査を行った上で、局が設置した学識経験者等で構成される「加古川市上下水道施設整備事業者選定委員会」（以下、「選定委員会」という。）が、応募者から提出された提案書類の内容、及び応募者によるプレゼンテーション・ヒアリングの内容を審査し、最優秀提案者の選定を行なった。

1-2. 選定委員会

選定委員会の構成は、次のとおりである。

表 1-1 選定委員会 委員 (敬称略)

区分	氏名	所属名	備考
有識者 (学識経験者)	酒井 彰	流通科学大学 経済学部経済学科 地域まちづくりコース 教授	
	檀 和秀	独立行政法人国立高等専門学校機構 明石工業高等専門学校 都市システム工学科 特任教授	
外部委員	上野 敏明	兵庫県県土整備部土木局 下水道課長	
	松井 三思呂	公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター 常務理事	
	高岸 義久	明石市都市局 次長	

1-3. 選定委員会の審査経緯

開催された選定委員会と各回における審査経緯は、次のとおりである。

表 1-2 選定委員会の開催日と審査内容

回	開催日	内容
第1回	平成30年6月27日	実施方針等の審議 選定委員会のスケジュール確認
第2回	平成30年8月17日	募集要領等のプロポーザル関係資料の審議 事業者選定基準、技術評価提案書評価シートの審議
第3回	平成31年2月6日	提案内容の審査、プレゼンテーション・ヒアリングの実施、採点及び集計、最優秀提案者の選定
第4回	平成31年2月14日	審査講評及び最優秀提案者の選定結果の報告

2. 選定結果

2-1. 応募資格の審査

応募者は以下の 1 グループであった。局は、代表企業及び代表構成員、構成員が、募集要領に示す応募資格要件を満たしているかどうかを審査した。この結果、全ての構成企業が応募資格要件を満たしていることを確認した。

応募者 【ハマダ グループ】

代表企業	(建設企業)	株式会社ハマダ
構成員	(建設企業)	建部工業株式会社
代表構成員	(設計企業)	日本技術サービス株式会社

2-2. 提案価格審査

局は、応募者が提出した提案価格が、各業務の見積上限価格以内であるかについて審査を行った。この結果、その提案価格が、見積上限価格以内であることを確認した。

2-3. 基礎審査

局は、応募者の提案書に記載されている事項が、要求水準書に定めた要求水準を満たしているかについて審査を行った。この結果、記載事項が、要求水準を満たしていることを確認した。

2-4. 技術評価審査

提案価格審査及び基礎審査後、選定委員会は、応募者によるプレゼンテーション・ヒアリングを実施し、応募者が提出した提案内容に対して、表 2-1 に示す審査項目及び表 2-2 に示す技術評価点の得点化方法により得点化を実施した。

表 2-1 審査項目

大項目	中項目	配点 内訳
(1) 会社概要	①設計企業の実績	3
	②工事監理業務の実績	2
	③建設企業の実績	3
	④JV 構成員への地元企業 ^{※1} の参画	2
	⑤協力企業 ^{※2} としての地元企業 ^{※1} の参画	2
(2) 提案概要	①工事概要	6
	②工事の確実性	12
	③近隣住民への対応	8
	④関連機関協議の対応	8
(3) 設計・施工計画	①設計の手順と工期	4
	②施設配置や工法	4
	③施工計画	5
	④工期の短縮と確実性	10
(4) 性能に対する安全性	①性能保証を行うための方策等	8
(5) 緊急時の対応	①緊急事態発生時の対応	3
合 計		80

※1 地元企業：建設業等を営む営業所を統轄し、指揮監督する権限を有する本社又は本店の所在地が、商業又は法人登記簿において、加古川市内である企業を指す

※2 協力企業：建設業法に規定される下請負人の外、資材業者、警備業者、運搬業者を指す

表 2-2 技術評価点の得点化方法

判断基準	評価	得点化方法
特に優れている	A	配点×1.00
優れている	B	配点×0.75
標準的（従来一般的な手法）である	C	配点×0.50
実現に課題を含んでいる	D	配点×0.25
実現が非常に困難である	E	配点×0.00

2-5. 技術評価審査（技術評価点）の結果

選定委員会は、前項の審査方法に基づき得点化を実施した。その結果、応募者（ハマダグループ）の技術評価点の合計得点は、表2-3に示す技術評価審査の結果により、技術評価点（80点満点）に対して50.88点（63.6%）の得点となった。

選定委員会は、最優秀提案者の選定にあたっての判断基準である60%以上の得点率を上回る結果となっていることから、妥当であると判断した。

技術評価点の計算にあたっては、小数点第3位以下を四捨五入し、小数点第2位まで求めた。

表 2-3 技術評価審査の結果

大項目	中項目	配点 内訳	応募者 ハマダ グループ の得点
(1) 会社概要	①設計企業の実績	3	1.50
	②工事監理業務の実績	2	0.50
	③建設企業の実績	3	3.00
	④JV 構成員への地元企業の参画	2	0.50
	⑤協力企業としての地元企業の参画	2	1.50
(2) 提案概要	①工事概要	6	4.20
	②工事の確実性	12	6.60
	③近隣住民への対応	8	5.30
	④関連機関協議の対応	8	6.00
(3) 設計・施工計画	①設計の手順と工期	4	2.25
	②施設配置や工法	4	2.10
	③施工計画	5	4.25
	④工期の短縮と確実性	10	6.40
(4) 性能に対する安全性	①性能保証を行うための方策等	8	4.45
(5) 緊急時の対応	①緊急事態発生時の対応	3	2.33
合計		80	50.88

2-6. 提案価格の審査（価格評価点）の結果

局は、応募者（ハマダグループ）から提出を受けた提案価格が、見積上限価格以内であることから妥当であると判断し、提案価格に対して、次式により得点化を行った。

価格評価点の計算にあたっては、小数点第3位以下を四捨五入し、小数点第2位まで求めた。

$$\text{価格評価点} = 18 \text{ 点} \times \left(\frac{\text{全応募者の提案価格のうちの最低提案価格(税抜)}}{\text{各応募者の提案価格(税抜)}} \right)$$

※提案価格の外、コスト削減に関する提案に関して、その削減額に応じて最大2点までの得点化を行う

表 2-4 提案価格の審査結果

項目	応募者 ハマダ グループ の価格と得点
全応募者の提案価格のうちの最低提案価格(税抜)	1,330,000,000 円
応募者の提案価格(税抜)	1,330,000,000 円
価格評価点	18.00 点

2-7. 総合評価結果

選定委員会は、次式に基づき、技術評価点と価格評価点の合計を総合評価点とした。

志方地区外公共下水道整備事業（第1工区）（以下、「本事業」という。）は、提案価格に加えて、技術的な提案内容を評価する公募型プロポーザル方式を採用していることから、選定委員会は、提案内容に対する技術評価を重視した。

応募者（ハマダグループ）の技術評価点の合計得点は、最優秀提案者の選定にあたっての判断基準を満たしており、提案価格においても見積上限価格以内であった。

よって、選定委員会は、総合評価点が妥当であると判断し、応募者（ハマダグループ）を最優秀提案者として選定した。

$$\text{総合評価点 (100 点満点)} = \text{技術評価点 (80 点満点)} + \text{価格評価点 (20 点満点)}$$

表 2-5 総合評価の結果

項目	応募者 ハマダ グループの得点
技術評価点	50.88 点
価格評価点	18.00 点
総合評価点	68.88 点

3. 審査結果の総評

本事業のプロポーザル募集には、1 グループの応募があり、応募資格要件を満たしていることが確認された。

提案内容の審査のうち、先ず提案価格審査並びに基礎審査が行われた。

提案価格審査については、応募者が提出した提案価格が見積上限価格以内であることが確認された。

また、基礎審査では、応募者の提案書に記載されている事項が、要求水準書に定められている要求水準を満たしていることが確認された。

提案価格審査並びに基礎審査実施後、選定委員会は、提案内容に対して審査項目及び配点に基づき得点化を行うとともに、応募者（ハマダグループ）によるプレゼンテーションを実施し、考え方や疑問点等について説明及び回答を求めた。

応募者（ハマダグループ）は、協力会社も含めて地元企業を中心に構成され、提出を受けた提案書も、周辺環境への影響に配慮する等、対象地区の状況を考慮した提案であった。

提案書は、求めていた工期短縮、確実な施工、近隣住民への対応、作業環境確保のための対策、性能保証のための方策、緊急事態発生時の対応のいずれについても具体的な提案があった。特に、本事業は狭隘な道路での施工が多く、周辺環境への配慮が非常に重要となるが、この点について、応募者は地元住民の安全や生活環境の確保、家屋への影響に対して、具体的で丁寧な対応を提案しており、優れていると評価されるものであった。

本事業を実施するにあたり、局と事業者間で十分な協議を行い、本事業が適切且つ効率的に実施されることにより、下水道未普及地域の早期解消が図られるとともに、地元企業の参画により、地域経済の活性化に資することを期待するものである。

本事業は、加古川市の下水道整備において課題となっている水道管の同時移仮設、及び関連する老朽管の更新をも含めた注目度の高い設計・施工一括発注方式である。今後、加古川市における下水道事業の着実な推進に向け、残された下水道未普及地域における本方式の導入、更には全国の下水道未普及地域の早期解消に向けた先行事例となることを期待するものである。

また、当委員会における附帯意見を踏まえ、詳細設計において合理的な根拠に照らした十分な検討・検証を行うとともに、早期の供用開始の実現に向け努力されることを望むものである。

<附帯意見>

- ・推進工法の採用等、確実な施工のために提案された手法については、詳細設計にて経済性、施工性、安全性の視点で再検証し、採用した手法について合理的な説明ができるように検討していただきたい。
- ・水道と下水道の同時施工のほか、より効率的な施工方法を検討していただきたい。
- ・工区割は、早期供用及び合理的な工程計画の視点を踏まえて検討していただきたい。
- ・流量計算書、容量計算書は、採用した数値やその根拠、計算過程が第3者にでも分かるように丁寧に作成していただきたい。

添付資料 審査項目別評価

大項目	応募者 ハマダグループ
(1) 会社概要	<p>設計企業の実績については、推進工法を含む下水道管きょ実施設計業務の実績と下水道管きょ工事の工事監理実績をそれぞれ複数有していると判断した。建設企業については、下水道管きょ工事について推進工法を含む実績を複数有していると判断した。協力会社としては、加古川市上下水道局の発注工事実績を有する施工業者と警備会社が地元企業として参画する体制と判断した。</p>
(2) 提案概要	<p>全体の工期について2ヶ月の工期短縮と遅延防止に留意した提案があり、標準、または優れていると評価した。</p> <p>狭隘部や推進区間、地下埋設物や水路との交差箇所に対して確実に施工を実施するための手法を提案しており、標準、または優れていると評価した。</p> <p>交通安全対策等としては、具体的で現実的な対策を提案しており、標準的、または優れていると評価した。特に、本事業で重視される近隣住民への対応については、地元の状況を的確に認識したうえで、具体的で丁寧な対応を提案しており、委員全員が優れていると評価した。</p> <p>地下埋設物の移設について、破損防止のための対策とその時期に関する提案があり、優れていると評価した。</p>
(3) 設計・施工計画	<p>設計手順について、配管ルート検討や、施工時の変更リスク低減のためのます位置の詳細確認を提案しており、委員全員が優れていると評価した。</p> <p>施工計画について、近隣の生活道路の確保のための施策を提案しており、委員全員が優れていると評価した。土曜日閉所に向けた取り組みや良好な作業環境確保のための具体的な施策についても、丁寧に説明されており、委員全員が特に優れていると評価した。工期短縮について、水道と下水道の同時施工による工期短縮と、農作業や学校行事、祭事への影響回避のための施策を提案しており、標準、または優れていると評価した。</p>
(4) 性能に対する安全性	<p>設計時の局との協議内容について、一般的な事項に加え、重点的に留意すべき事項を提案しており、標準、または優れていると評価した。</p> <p>設計時の性能保証について、各段階に応じた照査の留意点を具体的に提案しており、優れていると評価した。施工時の性能保証について、具体的な情報共有手法の提案があり、標準、または優れていると評価した。</p>
(5) 緊急時の対応	<p>緊急事態発生時の対応として、対処が異なる自然災害時、事故時に分けて、具体的な対処方法と手順を丁寧に提案し、且つ、いずれの場合も人命を最優先する配慮がなされており、優れている、または特に優れていると評価した。</p> <p>緊急事態発生時の通報及び処置体制については、明確で丁寧な提案をしており、標準、または優れていると評価した。</p>